

2月の安全運転のポイント 平成22年2月号

2月は最も気温が低い時期であり、積雪や路面凍結によって運転が妨げられ事故が起こりやすくなります。特に今年は、強い寒波の影響により豪雪に見舞われている地域も少なくなく、例年はほとんど雪のない地域でも、降雪や路面凍結のおそれがあります。

そこで今回は、積雪路や凍結路の安全走行について考えてみることにしましょう。



積雪路・凍結路の危険性

車の停止距離が長くなる

積雪路や凍結路は大変滑りやすいため、車の停止距離も長くなります。そのため、ブレーキをかけてもなかなか車が止まらず、停止している前車に追突したり、赤信号で交差点に進入するなどの危険な事態が発生しやすくなります。

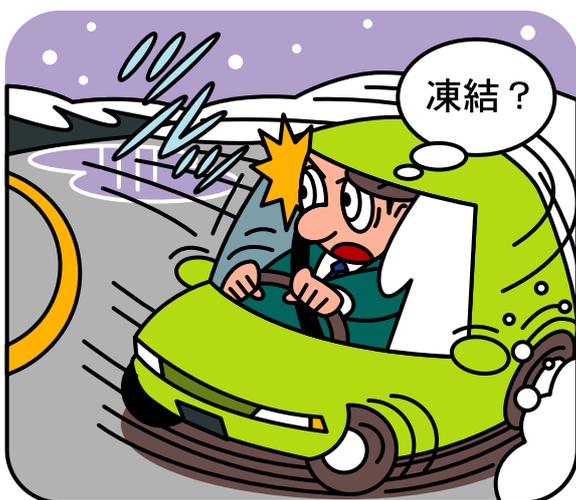


スリップしやすくなる

積雪路や凍結路では、スリップも起こりやすくなります。特に、カーブ走行時や右左折時、進路変更時などは、ちょっとしたハンドル操作やブレーキ操作でスリップすることがあります。また、急ハンドルや急ブレーキ、急発進、急加速などの“急”のつく運転操作は、スリップの大きな原因となります。

積雪路では道路標示が見えなくなる

積雪路では、センターラインや一時停止線などの道路標示が見えなくなります。そのため対向車線にはみ出したり、一時停止線を超えてしまう危険があります。また、路肩も見えなくなり、左端に寄り過ぎると側溝などに落ちてしまう危険もあります。



降雪時は視界が悪くなる

降雪時は、前方の視界が悪くなるだけでなく、サイドミラーやリアウインドーにも雪が付着するために後方や側方の視界も悪くなり、危険を見落としたり発見が遅れやすくなります。また、激しい吹雪などの場合は、前方がほとんど見えない状態になることもあります。

路面の凍結は発見しにくい

路面の積雪はすぐわかりますが、凍結は見分けにくく、スリップして初めて気づくということもよくあります。したがって、寒冷地でない場合でも、深夜から早朝に走行するときなどは、路面の状態に十分注意しないと、凍結路面を見落とす危険があります。

また、橋の上やトンネルの中、濡れた路面の日陰の部分、切り通しなどは、特に凍結しやすい場所といわれており、慎重に運転しないとスリップする危険があります。





積雪路・凍結路の安全走行のポイント

スピードを落とし車間距離をとる

積雪路・凍結路を走行するときは、スピードを落とすとともに、前車との車間距離を長くにとって慎重に走行します。特にカーブに入るときは、手前で十分にスピードを落とす必要があります。



停止するときは早めに減速する

前方の交差点が赤信号の場合や、見通しの悪い交差点に接近したときなどに減速のタイミングが遅れると、交差点の手前で停止できずに交差点内に進入してしまう危険がありますから、早めに減速します。



運転操作は慎重に行う

急ハンドル、急ブレーキ、急発進、急加速などの“急”のつく運転操作はしないようにします。特にブレーキ操作については、強く踏み込むとタイヤがロックしスリップするおそれがありますから、じわりとソフトに踏み込むようにします。



無理をして先に進まない

吹雪などで前方の視界が悪いときや、進行方向の地域に大雪などの予報が出されているときに、無理をして先に進むのは大変危険ですから、最寄りの避難場所や安全な場所に一時待避して様子を見るようにしましょう。



必ずタイヤチェーンを携行する

スタッドレスタイヤの場合でも、タイヤチェーンがないと走行に支障をきたすことがありますから、タイヤの種類を問わず、冬期は必ずタイヤチェーンを携行するとともに、あらかじめタイヤチェーンの装着方法を確認し、いざというときにスムーズに装着できるようにしておきましょう。

「ご相談・お申込先」